徳島ネパール友好協会・通信No.3

# コスト・ラムロ

(すばらしい)

1998年4月5日発行

## 第3回徳島ネパール友好協会定期総会のご案内

新緑の候、ますますのご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、平成8年2月28日みなさんのご指導とご援助により、徳島県における国際親善、交流の一翼として設立された当協会も、スタート以来2年が経過しました。

その間、引き続き温かいご支援をいただき、多くの事業が順調に進展し、本県とネパールとの友好・親善に少しなりとも寄与できたことを喜んでいます。

特に同国中部における森林保全と、住民生活向上のためブジュン村において、出力80KWの超小型水力発電所を建設する事業は、運動を開始してから3年半、おかげさまで、昨年11月25日現地において起工式を行うことができ、12月より工事に着工、本年12月末完成をめざしています。もう少しで私たちの思いがブジュン村に届くところまでこぎつけました。

そこでこの度、この一年を振り返るとともに、ネパール山村に「灯」がともる記念すべき年となるであろう、1998年を展望する場として、会則第10条に基づき下記のとおり定期総会を開催いたします。

つきましてはご多忙とは存じますが、ご出席いただきたく、ご案内申し上げます。

尚、お手数ですが準備の都合がございますので、4月16日(木)までに出欠席の電話連絡をいただけますようお願いいたします。また欠席の場合メッセージなどいただければ幸いです。

○とき　平成10年4月26日(日)　17時～19時

○ところ　徳島パークホテル　2階高砂の間

(徳島市徳島町2丁目32番地)　☎ 0886-25-3311

○行事

1. 昨年11月25日、ブジュン村で行われた小型水力発電所建設起工式と、同28日、カトマンズ市内でのネパール徳島(日本)友好協会との姉妹提携調印式並びに先月、現地より送られてきた工事中の模様を映したビデオを放映いたします。
2. ネパール徳島(日本)友好協会々長、ビシュヌ・ゴパール・シュレスタ氏、をお招きし同氏から日ネ両国の友好、親善活動について報告していただきます。

○懇親会　総会終了後19時より同ホテル3階呉竹の間にて同氏を囲んで懇親いたします。
尚、懇親会のみの参加者も歓迎いたします(出欠席のご連絡をお願いいたします)
会費　6000円

○連絡先

◆会事務所　☎ 0886-75-0835(夜間のみ)　FAX 0886-74-4168
◆天野親聡　勤務先(小松島税関支署)　☎ 08853-2-0326(昼間)

1998年4月　徳島ネパール友好協会々長　中瀬敬之

# ネパール写真展へのご招待

これまでネパールが好きで訪れた当協会々員からレンズをとおし描いた、超小型水力発電所建設地であるブジュン村での生活や発電所建設地の模様をはじめ、同国の文化、人、山岳自然を紹介することにより、同国への一層の理解と支援を訴えるため企画しました。

○日　　時　　4月17日（金）10時～19日（日）19時
○会　　場　　文化の森総合公園・徳島県近代美術館
○出展作品　　約120点（20名）全紙、半切、四つ切り、パネル張、額入り
　　ネパール関係者からの出展予定も予定
○後援団体　　ネパール王国観光省、在日ネパール大使館、ネパール徳島（日本）友好協会など
　　ネパール関係をはじめ、県教育委員会、NHK徳島放送局、朝日新聞徳島支局、
　　徳島新聞社、四国放送
○入 場 料　　無料
○お 願 い ⇨ 写真展期間中会場に、ネパールで購入された民芸品、特産品などを出品して紹介しようと考えています。お借りできるものがあれば、助かりますのでお申出し下さいよろしく

＊JR徳島駅から徳島市営バス・徳島バス利用（約25分）
＊JR牟岐線文化の森駅から徒歩（約35分）

徳島県立近代美術館
770 徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園
Tel: 0886-68-1088 Fax 0886-68-7198

第1998年(平成10年)4月1日　水曜日
朝日新聞

◆ネパール写真展　17－19日、徳島市八万町向寺山の県立近代美術館で。徳島ネパール友好協会などが小規模水力発電所を建設しているネパール中部・ブジュン村の暮らしの様子＝写真＝や、ネパール各地の自然、民族、文化を伝える写真約120点を展示する。関係書籍や民芸品、小規模水力発電所建設事業の資料展示もある。問い合わせは徳島ネパール友好協会理事長の天野さん（0886・75・0835）。

ブジュン発　灯　通　信　小型水力発電進行状況

S．L．バイディア氏レポート

1．１９９８年2月２４日付レポート

◎2月１６日カトマンズを出て、夕方ベンシサハール（ブジュンへの自動車道最終地）に到着しトラック２台分のＨＤＰＥパイプが当地に着くのを確認した。ＢＹＳ（請負会社）ｻｰﾍﾞｰﾔｰと現場監督が同行した。2月１７日夕方ブジュン村到着し、ＡＣＡＰスタッフ、村電化委員会との会議を行った。2月１８日、１９日　現地の様々な土木建築現場をグラン氏（ＢＹＳ）や委員会メンバーと視察した。２０日　ＡＣＡＰ事務所にて電化委員会、ＢＹＳとの会議を行った。２１日ベンシサハールに帰る、ここでさらに２台のＨＤＰＥパイプが到着しこれについては全てベンシサハールまでの受け渡しが完了した。

◎工事の進行状況

○取水口：取水のための入り江を作るための石集め以外に特に進展なし。

○入り江の設定：約５０立方mの掘削作業は５０％、石集めは９０％、砂集めは５０％完了

○入り江と注水口を分離する入り江：石集めは予定量オーバー、砂集めは３６％完了す。

○ＨＤＰＥ導水路、導水管パイプ：ベンシサハールへの引き渡し８０％完了、残りも数日中に完了する見込み、掘削作業は５６０立方m（予定の２２％）

○導水管用の軟鉄：ベンシサハールへの鉄製パイプの受け渡しは０％。

○アンカーブロックと補助岸壁：コンクリート用骨材２立方m採取。

○発電所：設置現場での発電所床面までの掘削作業完了した。コンクリート骨材は２５％

◎財政的な進行状況

現在までの財政的進行状況は　２，０１５，２６５RS

◎問題点

○ＨＤＰＥや鉄製導管を6月までに農地に沿って据付け完了の要あり（田植のため）

○１０００mの農地掘削作業に現在の進度では４ケ月必要である。村民は３月から総出で掘削作業を行えば２６０mを１０日で完成させる。よって残り部分を業者は完了する必要がある。

○業者はパイプ類を現地に輸送していない。村民は3、４月に特別重いものを除いて輸送する申し出をしてるが、延べ2250人具を要する。

○現在の進行状況はＢＹＳの当初計画より遅れており、今後の作業計画の現実的な作業計画の立案と提出を命じています。

2．１９９８年3月１１日付けレポート

私が前に送りましたＥメールが届かなかったようのでＦＡＸで再送します。

◎現在の村民からの電気需要調査ではすでに相当の申し込みがあり、当初の１１０ＫＶＡの設計より１２５ＫＶＡのほうが良いと考えます。その価格の違いは１５０＄です。

◎ＢＹＳに銀行の信用状の開設について問い合わせた。ＫＭＴＮＣはインドの銀行はドル支払いは認められていないといっています。もしそうであればＲＳ（ﾙﾋﾟｰ）での見積もりが必要である。このプロジェクトはＴＯＮＦＡより外貨援助があるので、それをインド向け支払いに当てる事が可能かＢＹＳに調査を要求しています。

◎2月２６日の会議で、鉄製導管の一部について地中埋設であった計画を地上敷設に変更することとしました。

# ネパールの山村に灯を
# ＝小水力発電所建設起工
# 旅行記録＝
# （尾野益大）

［第１日目］　１１月２３日（日）

８時３０分　徳島港・沖の州マリンピア出発
１０時００分　関西国際空港到着
１３時１０分　トルクメニスタン航空機で同空港発
２２時４０分　カトマンズ着
（ネパール時間・１９時２５分）
以下ネパール時間。
２０時　５分　同空港をバスで出発
　　２５分　ホテル・ダルバール着
ロビーで日ネ両国友人自己紹介後、部屋に荷物を置きレストランで軽食

［第２日目］　１１月２４日（月）

８時００分　ホテル・ダルバール発
　　２０分　ホテル周辺と日本語学校見学
１１時００分　ホテル・ダルバール発
　　２０分　トリブバン空港着
１２時２０分　同空港発。航路で白銀の峰々が美しく見える
　　４５分　ポカラ空港着
１３時３０分　ホテル・シャングリラ着
１４時１０分　同ホテルをバスで出発し周辺観光。
マヘンドラケイブ（デビットホール深さ約８０㍍）、バザール街、カウンキー川水路、寺院からマチャプチャレ峰遠望

［第３日目］　１１月２５日（火）

７時５８分　ポカラ空港をヘリで出発（第一団）
８時１２分　ブジュン村に第一団到着。
ヘリポートから集落に至る道いっぱいに村人全員かと思う数珠の歓迎の列が連なり、その合間を縫って歩く。
マリーゴールドの花輪を何重にも掛けられる。
９時　６分　第二団到着
１０時２０分　第三団到着
キングマヘンドラトラスト・ＡＣＡＰの事務所前で簡単な歓迎式があり、村の実力者宅で昼食（ナン、パン、紅茶、ゆで卵など）のもてなしを受ける
ミディム川左岸の小型水力発電装置建設予定地での起工式の開催
１１時５５分　起工式会場を出発
１２時２０分　農業用水用パイプ設置予定分岐地点
　　３０分　取水口地点到着
（標高１５００ｍ。発電所建設地から約１・７㎞、標高差約１４０ｍ）
　　４５分　取水口地点発。途中、雨が降る
１４時００分　ブジュン村到着
シュリ・トリブバン・ビディヤスラム・マディヤミワ・ビディヤラヤ学校（ビリナート・アディカリ校長、小・中・高校生３８６人、教師１３人）見学。生徒が創作したダンスと歌を披露してくれ歓迎される
１７時００分　学校出発
　　２０分　集落に到着後、ＡＣＡＰ事務所で村人と交流会を開く。民家、商店三件を訪ねる

［第４日目］　１１月２６日（水）

| | |
|---|---|
| ７時３０分 | お別れ式後、歩いて出発<br>但し中瀬先生、美馬さん、吉本さんはヘリで帰る |
| ７時５５分 | 学校分岐点 |
| ８時１０分 | トゲニ峠 |
| ９時１０分 | ガナポカラの峠 |
| １０時　６分 | ガナポカラの茶屋<br>紅茶飲む |
| ３０分 | 茶屋出発 |
| １３時００分 | マナスル峰の見える峠の茶屋到着。ラーメンの昼食 |
| ５０分 | 茶屋出発。美しい棚田脇を通る。 |
| １６時０５分 | ベシサハール到着 |
| ２０分 | ＡＣＡＰの送迎バスが来ておらず茶屋で休憩。電話が故障して連絡も付かない |
| １７時４０分 | 茶屋出発 |
| １８時２４分 | 路線バスを貸し切り出発<br>未舗装の悪路に次ぐ悪路 |
| ２１時３５分 | ディムレの町で食事。ラーメンなど。 |
| ５５分 | 出発 |
| ０時２５分 | ポカラのホテル・シャングリラ到着 |

［第５日目］　１１月２７日（木）

| | |
|---|---|
| | ホテル・シャングリラ出発し、フェーワ湖周辺へ観光と昼食 |
| １３時４５分 | フェーワ湖発<br>ホテル着 |
| １５時１０分 | ホテル発 |
| １６時２０分 | ポカラ空港発。エベレストがかすかに見える |
| ５０分 | カトマンズ着 |
| １７時３０分 | ホテル・ダルバール到着 |

［第６日目］　１１月２８日（金）

| | |
|---|---|
| ７時３０分 | マウンテンフライトにホテル出発 |
| ９時３０分 | 離陸。エベレスト、ローツェなどがよく見える |
| １０時３０分 | 空港に着陸 |
| １２時３０分 | 観光など |
| １９時００分 | カトマンズ市内のマツッラホテルで徳島ネパール友好協会と、ネパール徳島友好協会が姉妹提携。その後、ディナーやカラオケが行われる |
| ２１時１０分 | ホテル発 |

［第７日目］　１１月２９日（土）

| | |
|---|---|
| ９時００分 | カトマンズ市内の観光と土産買い物 |
| １８時００分 | スーマン・シュレスタさんの家で夕食 |
| ２１時３０分 | バスでカトマンズ空港へ |
| ０時２０分 | ロイヤルネパール航空機で離陸 |

［第８日目］　１１月３０日（日）

以下、日本時間

| | |
|---|---|
| １１時００分 | 関西空港到着 |
| １３時３８分 | 同港発 |
| １５時００分 | 徳島港・沖の州マリンピア着。喫茶店で簡単な報告とあいさつをして分かれる。 |

徳島新聞
1997年(平成9年)12月14日　日曜日　セット版　社会　(30)

# ネパールの村に灯を

## 水力発電起工式　同行記

○1

徳島ネパール友好協会（会長・中瀬敬之徳島大教授）が取り組んできたネパール中部のブジュン村への水力発電装置建設支援計画が、いよいよ実現に向けて起工した。ヒマラヤの緑を守るため、同協会が国内で初めて、民間の草の根活動でネパールの小さな村に電灯をともそうと活動を始めてから三年。工事が順調に進めば、来年の今ごろには、山肌に点在する家々から電光が漏れるはずだ。会員十人が参加した悲願の起工式に同行し、厳しい環境の中で、つましく、それでいて温かさを忘れずに暮らす人たちに触れ、あらためて地球環境などについて考えさせられた。

（板野支局・尾野益大）

# 環境厳しいが心温かく

## 歓迎

首都カトマンズから国内航空でネパール第二の都市ポカラに飛び、さらに約二十五キロ北東の電灯のない山村・ブジュンへ向かうヘリコプターに身を託したのは十一月二十五日午前八時。快晴ではなかったが、日差しは暖かく風もそう快。ネパールは今、乾期に当たり観光シーズンの真っただ中。日本なら春のころだ。

三七㍍）から派生した標高一七〇〇―二〇〇〇㍍の高地に形成されるブジュン村は「民族の博覧会場」といわれほど多数の民族が混在するネパールでも、原住民アンナプルナⅡ峰（標高七九族で占められる。村の長老によると約二千人が約三百十戸に分かれ「千年も前から代々この地で人生を送ってきた」そうだ。

ポカラから、車と徒歩で丸二日の行程を、三班に分かれ、それぞれ十四分ほどの飛行でブジュン入りした一行を待っていたのは、山肌を縫う道という道、家という家の庭にあふれ出た、黒い瞳、黒い髪の人垣による熱烈な歓迎だ。

村の代表者から、首が傾くほど何重も花輪を掛けられ、吉祥を祈るティカという赤い粉を額に塗られた。笛と太鼓が先頭に立ち、畳二十枚分ほどの狭いヘリポートから、起工式が行われる建設予定地のミディム川岸へ向かう間も、人々は「ナマステ（こんにちは）」の温かいあいさつを送ってくれる。一行はチベット仏教式に、誠意を込めた合掌でこたえた。

ブジュンに向かう上空から眼下に見えたのは、緑の林と赤茶けた階段状の耕地が、山頂からふもとまでまだら模様に広がる風景。日干しれんがの家屋と、米粒大ほどの小さな人間も目をこらせば確認できた。「徳島の祖谷地方とよく似た風景です」との中瀬会長のヘリの中での言葉に納得し、この時はネパールが抱える森林伐採問題もさほど深刻には感じられなかった。

目を上げると、アンナプルナなど遠い昔から地元の人々に「神々が住む聖なる山」と崇拝されたヒマラヤ連峰が見えるはずだったのだが、わずかに、雲間からのぞいた銀嶺（れい）だけで、ヒマラヤを見た感動に浸ることにした。

友好協会の一行を待ち構えていたのは、道にあふれた人垣と何重もの花輪だった＝ブジュン村

3-6/10

# ネパールの村に灯を

## 水力発電起工式　同行記　○2

# 燃料用に森林を伐採

## 荒涼

起工式場へ向かう途中の集落のはずれで、徳島ネパール友好協会（会長・中瀬敬之徳島大教授）のメンバー十人の大半は、まるで谷底に吸い込まれるような急角度で下る山道に度肝を抜かれた。現地の人たちは「所によっては四〇度くらいの傾斜だろう」と何気なく言うが「つまずけば下まで一気に転落する怖い道」に映った。

やがて、山の中腹からすそ野にかけて広がる荒涼とした土地が、目に飛び込んできた。燃料にしたり、畑にしたりするため、森林を伐採し尽くした光景に、一行は言葉もなかった。土砂崩れを防ぐ、低い石垣がしま状に延々と築かれているが、まるで砂丘のように見えた。そこだけでも野球場が四面は取れる広さだという。ヘリから模様のほんの一部でそれほどなのだ。

「一帯の森林は、とうの昔に切り倒され、まきとしてエネルギーに代わりました」。村の長老が人さし指で宙に円を描き、乾ききった大地の広さを表した。

ネパールでは、電気を使って生活する住民は国民の一割といわれ、木材は貴重なエネルギー資源。ネパール森林資源省によると、エネルギーの九六%を森林に依存し、毎年三%の緑が失われている。二十年前は国土の六四%あった森が、現在は三七%にまで減少している、という。また、年間約二十万人いる観光客のうち二割程度を登山客が占め、彼らの炊事や暖房のためにも伐採されるため、国花・シャクナゲの林も年間一%が消滅しているそうだ。

観光地ではないが、ブジュン村も例外ではない。約二千人の村人の料理、暖房のほか建築材などとして、土壌保全や水源をかん養する森を〝消費〟している。今では伐採できる近隣の林はほぼ切り尽くした。

百キロ近い重さになる木材の運搬は人力が頼り。背負い子（しょいこ）は、頭に背負いバンドを掛けるスタイルで「女性も交じって山道を何度も往復して運ぶのが普通」と村人。日本では想像できない暮らしぶりだ。「そのため首や腰痛の悩みは絶えない」とも。

森林伐採は、村人に過酷な生活を強いるだけでなく、地球環境にまで影響を与え始めている。「一九八七、八八年に発生したバングラデシュの大洪水は、上流部・ヒマラヤの森林伐採が原因では」と考える研究者がいるほか「ヒマラヤで発生する上昇気流に含まれる水分が減少すると、日本の梅雨期などの気象にも影響する」という声もある。

天野親聡同協会理事長は「鉄砲水と土石流が村を巻き込む恐れがある。雨期は要注意」と憂えた。こうした事態を回避しようと、ネパール国王の弟が出資した民間自然保護機関「キングマヘンドラ・トラスト」が、アンナプルナ周辺の村を十二地域に分け、発電装置の設置に着手したのは九〇年。ネパール政府も森林回復事業のマスタープランを作成している。

徳島ネパール友好協会は、進む森林破壊を食い止めるため、村に代替エネルギーを供給しようと昨年、同トラストに支援を約束。村が一年に消費する約千五百トンの木材の節約と、付随する問題の解消を目指している。

（板野支局・尾野益大）

山の中腹からすそ野にかけて広がる荒涼とした森林伐採地＝ブジュン村

3-7/10

徳島新聞
1997年(平成9年)12月16日　火曜日　セット版　社会　(26)

# ネパールの村に灯を

## 水力発電起工式　同行記　○3

# 大地を鎮め　安全祈る

## 悲願

徳島ネパール友好協会に県民から寄せられた募金は約千六百万円。これで発電量八十㌔の超小型水力発電装置をアンナプルナ山群東端の山腹が源流のブジュン村を流れるミディム川に造り、村の全戸が一晩中、裸電球をともし、炊飯器やトウモロコシなど穀物粉ひき機に使える電気をまかなうのが今回の計画だ。

悲願の起工式は十一月二十五日、幅十㍍ほどの澄んだ水が岩の間を縫ってごうごうと流れるミディム川右岸の猫の額ほどの広場で開かれた。同協会の中瀬敬之会長らメンバー十人と建設主体のネパールNGO「キング・マヘンドラ・トラスト」幹部のシダルタ・バジュラ・バジュラチャルヤさん、建設会社の代表者、村のお年寄りや小・中学生ら約五十人が参列した。

式は地元の慣習に習ってヒンズー教式で営んだ。参列者の座席も演台もなく、それぞれ岩に腰掛けたり、むしろに座ったり、地面に直接あぐらをかいたり。協会員は終始立ったまま「郷に入れば郷に従え」と笑っていた。

開会を告げる言葉はなく、白い袈裟（けさ）を着けた祈とう師が、おもむろに長さ約一・五㍍の鋼鉄の棒で、広場の真ん中に穴を掘り始めた。工事関係者も代わる代わる棒を握った。

「日本でいえばくわ入れに当たるでしょうか」と現地のガイド。

交代で小一時間かけて深さ約七十㌢、直径約四十㌢の穴ができると、牛のふん、ごま、大麦、ティカ（吉祥を祈る赤い粉）、米、コインを入れ、小・中学生五人と中瀬会長らが水を注いだ。さらにセメントを落とし、土を埋め戻し、大地に生息しているヘビなど動植物を鎮め、工事の安全を祈った。開会時間や穴の場所、鎮め物は祈とう師が占いで決めたのだそうだ。

式終了の合図もなかった。しかし、突然川音をかき消すほどの拍手が起こり、祈とう師が参列者の額にティカと、白いヨーグルトを塗り、小学生から手作りの花輪が贈られた。

式後、一・七㌔ほど上流の発電取水口予定地へ行った。三十五分で到着した現場は、徳島なら穴吹川や祖谷川の上流部と似て、幅約二十㍍の河原に直径二、三㍍の岩が散らばり、真ん中にごう音の響く白い激流があった。ここから装置まで導水管を通し、落水でタービンを回すのだ。

バジュラチャルヤさんは「雨期のこの川は、今の数十倍の水量に膨れ上がり、年に一、二度は取水部が壊れる可能性がある。極力自然石を使い、修理をまめにします」と説明した。日本から再々、技術者らが訪ねることができない地域だけに、地元で修理ができるようにすることはとても大切だ。

天野親聡同協会理事長によると、建設で使う発電機などはヘリで荷揚げするが、送水管や送電線などは、ふもとの街・ベシサハールから約十二㌔の急な山道を人力で運び上げるという。私たちは、ブジュン村で一泊し、その道を約八時間かけて下ったが、集落と集落の間は何度も転げ落ちるのでないか、と肝を冷やすほどの山道が続き、資材運搬は苦労を極めるだろうことも実感した。

（板野支局・尾野益大）

悲願の起工式。ヒンズー教の慣習に習い、地面に掘った穴に祈とう師らが鎮め物を埋めた＝ブジュン村

ネパール・ブジュン村超小型水力発電所建設への資金援助のお願い

平素は、当協会の事業に対しご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

さてネパール王国では、地域住民のエネルギー消費による、森林破壊をくい止める方策として、登山やトレッキングの最も多いアンナプルナ山域に、自然環境保護区域を設け、代替エネルギー案として、１６のモデル村に超小型水力発電装置を設置する計画を立て、外国のＮＧＯに支援を呼びかけていました。

私たちは、この計画のうちブジュン村への発電装置建設を援助しようと、これまで６回村を訪れ、ネパールにおける森林破壊の実態を強く実感させられました。また一方では、1994年秋から、無償援助金分等2000万円を目標に、県内外の企業、事業所また環境保全やネパール、あるいは発展途上国援助に関心のある方々に支援をお願いしてまいりました。その結果、郵政省国際ボランテイア貯金寄付金の配分や、多くの方々のあたたかい御協力と、快く寄付に応じていただいた皆さんのおかげで、目標額の８割にあたる約1600万円が寄せられました。そこで当協会では、目標達成のため残りの 400万円の寄付をあとひと廻り広く、皆さんに訴えることにしました。

地球規模での環境保全や、発展途上国援助がさけばれている今日、日本で初めて徳島の援助によって、ネパールの山村に灯がともることにより、年間約1500トンの木材資源が節約され、これまで木材伐採に要していた労働力が削減されます。特に主婦や子供がマキ運びやイロリ作業から解放され、健康、教育環境も大幅に改善されます。もう少しで私たちの思いが、ブジュン村に届くところまでこぎつけました。何としても水力発電所を完成させ、日本とネパールの間に強固な「かけはし」を築き、民間レベルでの親善、交流を進めたいとの強い願いを持っております。発電所建設まで、あとひと頑張りが必要なことはもちろんですが、多くの支援して下さる方々がいてこそ可能なことです。

どうか、この事業の主旨を今一度ご理解いただき、資金援助を寄せて下さるよう重ねてお願い申し上げます。皆さんから寄せられた善意を無にすることなく、全力をあげ取り組みたいと決意している次第です。

尚、当事業は資金調達と平行して、1997年 6月13日工事協定書に調印。11月より建設に着工。本年11月末完成。その後試験運転と従業員の研修、12月末頃引渡しの予定となっています。

追記　資金援助や寄付金ポストを置いていただけそうな、企業や事業所、団体、知人の紹介もお願いできれば助かります。

振込先

（銀行振替）阿波銀行　石井支店　（普）１００９３６９　徳島ネパール友好協会

（郵便振替）　石井郵便局　　０１６００－２－５２７４２　　〃

平成１０年４月　　徳島ネパール友好協会

3-9/10

## 短　信

◇　ネパール政府観光省観光局長、プラチャンダ・マン・シュレスタさんの腎臓再手術は終了、経過も良好で無事退院しました。

当初、来徳する予定でありましたが、本年“観光年”であるネパールでの局長としての仕事が待っていることから即刻帰国いたしました。お世話になりながら、あいさつもせず失礼するが、みなさんによろしくとの伝言がありました。尚、みなさんからの手術費等への募金は２６万円いただきました。本当にありがとうございました。

◇　徳島大学工学部機械工作センターに勤める、古一明良氏から美馬準一氏の活動を知り、ネパールの教育基金にと２０万円の寄付がありました。協会では５月上旬のネパール訪問時、ブジュン村関係者に直接手渡すことにしています。

◇　徳島大学医学部外科第一講座へ約１年間、研究者として従事していた、ミトラ・ラル・シュレスタ氏は１月末ネパールへ帰国しましたがこのたび、近況と我々へのお礼の便りがあり、みなさんによろしくとのことでありました。

◇　昨年11月ネパールを訪れた美馬準一氏は徳島市佐古７番町の自宅庭にブジュン風の邸宅を建設中、一見の価値あり（４月中旬完成予定）

## 事務局だより（再信）

◇ 発電所建設資材と教育・学用品、並びに日用品などをコンテナで運搬するための準備作業を手伝っていただける方を探しています。４月の土・日曜日に行いますのでよろしく。

◇ 協会活動には、それを保証する財源が必要です。

●会費納入（1997年分未納者のみ）

●会員拡大、特に賛助会員の拡大と同会員への変更をお願いします

◇ 会員数（H10.3.31 現在）賛助会員２０名、普通会員１２０名

多忙にて事務局での運営手伝い者を募っています。よろしく

◇ 当協会への意見、要望やみなさんからの近況報告がありましたら是非御一報下さい。

（文責・天野親聡）

徳島ネパール友好協会

〒779-3211
徳島県名西郡石井町藍畑字西覚円718-5
TEL・FAX 0886-74-4168　TEL 0886-75-0835